

プロジェクト名 | レジリエンスW住宅

レジリエンス措置の内容
＜想定するリスク（課題） およびその背景・必要性＞ 南海トラフ巨大地震・近畿内陸直下型地震および豪雨激甚化に伴う「停電・通電火災」リスク。対象エリア（京都府南部・大阪府北河内）は想定震源域に近接し、阪神・淡路大震災では出火原因の約6割が電気系統に起因。従来の耐震偏重の対策では「発災後の電気の安全管理」と「停電時の電力確保」が欠落しており、電力自立型の在宅継続モデルの構築が必要。
＜提案・解決策＞ 【平常時】耐震等級3・断熱等級6・一次エネルギー消費量等級6に加え、感震ブレーカーと蓄電池（5kWh以上）を全棟標準装備。平時は省エネ・ピークシフトに活用するフェーズフリー設計（ハード的手法／一戸単位での措置） 【発災時】感震ブレーカーが震度5強以上を感知して主幹ブレーカーを自動遮断し、通電火災を防止。遮断後は蓄電池が自立運転へ自動切替。「遮断＋供給」の電気レジリエンス二段構え設計が本提案の核心（ハード的手法／一戸単位での措置） 【発災直後】蓄電池により照明・通信・医療機器等の電源を確保し、72時間～1週間の在宅継続を支援。断熱等級6が停電下でも室温変動を緩やかに保ち、高齢者・乳幼児等の健康リスクを低減（ハード的手法／一戸単位での措置） 【復旧・回復期】発災後72時間以内の安否・設備確認コンタクトフロー、地域協力業者との緊急修繕ネットワーク、レジリエンス住宅ガイドブックの配布と10年間の維持管理サポートにより平時状態へ迅速に復旧（ソフト的手法／一戸単位での措置）

提案内容の先導性	提案内容の実現可能性	提案内容の普及可能性
感震ブレーカー全棟標準×蓄電池による「遮断＋供給」の二段構え設計を、地域の分譲住宅で先行して標準化。パナソニック公式採用事例として対外的にも認知済み	感震ブレーカー・耐震等級3・断熱等級6・長期優良住宅は既に全棟採用済みの実証済み技術。蓄電池は令和8年度から全棟標準化予定で、調達体制も構築済み	構築済みの外販パートナースキームによる地域住宅事業者への水平展開と、SNS・展示会での情報発信により、追従しやすい普及モデルを提示